

新たな広聴の仕組み実践プロジェクト第1回検討会

平成19年7月31日 19:00 から 21:00

参加者：浦田(特定非営利活動法人いせコンビニネット)、米山(松阪市市民活動センター)、中盛(W.T.Aまちづくりセンター)、辻(広聴広報室)、川村、大山(サポート委員)、松野、明石(NPO室)

提案の趣旨の共有

- ・ 市民対話型の広聴の場における(1)クレームに近い発言の増長や、(2)問題発生時の危機回避対策不足、(3)県庁内の横の連携不足などの問題意識がきっかけで提案した。
- ・ 民間の・・・

検討会の目的の確認

- ・ 広聴は行政の仕事であるが、県民のアイデアを生かしてよりよいものにしていくため、県とNPOが協働で取り組む。
- ・ 広聴の仕組み全体に市民感覚を取り入れて検討をすることに価値があるが、数回の検討会で広聴の仕組み全体の検証を行うのは困難であるため、今回は提案に沿った形とし、「市民対話型広聴の仕組み」に集中して検討する。
- ・ 検討会のメンバーは、県の仕組みをある程度理解し、県民活動の身近にいる中間支援として活動する人を中心に構成する。

今後の進め方の確認

- ・ それぞれの役割分担を明確にするため、特定非営利活動法人いせコンビニネット、広聴広報室、企画室、NPO室で協定書を結ぶ。
- ・ 提案内容から見ると様々な形の事業の検討が可能であるが、12月8日の知事と語ろう「本音でトーク」を実験事業に位置づけ、課題を検証する。
- ・ 第1回から第4回は実験事業の内容を検討し、第4回から第7回で広聴の仕組みについて検討する。

検討内容

- ・ 広聴のしくみ全体の中で「市民対話型広聴」の位置づけを理解して検討する必要があることから、「本音でトーク」の経緯、課題を共有した。
- ・ 県のめざす「本音でトーク」の目的と成果は、参加者の公平公正な発言の機会の確保を通じた、県民と県との相互理解、幅広い県民意見の収集と県政への反映であり、これらを通じた参加者の、参加したことの満足度の向上である
- ・ 実験事業における成果をどこに設定するかを意見交換(以下は主な意見)
(1)参加者の目的によって満足度が違う、(2)他の広聴のシステムで対応できるものもあるのではないかと、(3)他の参加者にわかりにくいローカルな話題をどうするか、(4)フリートーク形式よりワークショップ型の議論は満足度が高くなる、(5)対話型でないに対応

できないものに絞った方がよい、(6)従来の意見の事前提出方式に違和感がある、(7)意見の事前提出がないと公平公正な発言機会の確保が難しい、(8)意見を整理するなら取り上げられなかった意見をどうするかが課題、(9)参加者と県の見解の違いの整理・すり合わせに工夫が必要

次回検討会

- ・ 広聴のしくみの全体像を確認する。
- ・ 本音でトークの過去の実績、アンケート結果、満足度などを共有する。
- ・ 次回日程 9月5日19時から 次々回日程 9月18日19時から